

報道関係各位

～茨城県出身の2名を含むオーディション合格者が決定！～

## 舞台『海辺の鉄道の話』制作記者発表のご案内

ACM 劇場は9月に舞台『海辺の鉄道の話』を上演いたします。本作は、実在の鉄道をモデルに、廃線の危機を乗り越えて再生を遂げようとしている小さな鉄道に関わる人々を描く、最新作です。去る3月19日に出演者オーディションが行われ、応募総数127名の中から、茨城県出身の2名を含む計6名が選出されました。

このたび、8月からスタートする稽古に先駆けて、作・演出を手がける詩森ろば、主演の松村武をご紹介する制作記者発表を、物語のモデルとなる「ひたちなか海浜鉄道」の走る列車内で行います。当日は、オーディションで選ばれた地元出身のキャストも参加予定です。何卒この機会に、貴媒体にてご取材、ご紹介くださいますようお願い申し上げます。

オーディション合格者 6名

高畑こと美 八幡みゆき 白井風菜 杉山文乃\* 椎名一浩 篠原立\* \*茨城県出身

### ～ひたちなか海浜鉄道の走る列車内で制作発表を開催！～ 舞台『海辺の鉄道の話』制作記者発表

【日時】 2018年4月10日（火）12:30～14:30（12:15受付）

【場所】 ひたちなか海浜鉄道湊線 列車内および「那珂湊駅」  
（原則として「勝田駅」改札口にて集合・解散となります）

【行程】 「勝田駅」発（12:40）の列車（臨時車両）内で出席者をご紹介し、  
途中「那珂湊駅」にてフォトセッションを行います。

【出席者】 詩森ろば（作・演出） ※出席者プロフィール別紙参照  
松村武（主演）  
茨城県ゆかりの出演者（篠原立、杉山文乃）  
吉田千秋（ひたちなか海浜鉄道取締役社長）、佐藤彦三郎（おらが湊鉄道応援団長）  
井上桂（水戸芸術館 演劇部門芸術監督）

【内容】 企画説明／出席者紹介とコメント／質疑応答および写真撮影  
（フォトセッションと個別取材…「那珂湊駅」予定）

※出席者への個別インタビューを希望される方は、事前にお問合せください

<お問い合わせ>

【取材に関すること】水戸芸術館 広報係 川崎・鴨志田 Tel. 029-227-8111 (代表)

【企画に関すること】同 演劇部門学芸員 本間 Tel. 029-227-8123 (演劇部門)

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町 1-6-8 (公財) 水戸市芸術振興財団

ACM 劇場プロデュース公演/未来サポートプロジェクト  
『海辺の鉄道の話』

【作・演出】 詩森ろば (風琴工房 改め serial number[シリアルナンバー])

【出演】 松村武 (カムカムミニキーナ)

酒巻誉洋、佐野功、杉木隆幸、田島亮、橋本昭博、

高畑こと美、八幡みゆき、白井風菜、杉山文乃、椎名一浩、篠原 立

劇団 ACM (塩谷亮、大内真智、小林祐介)

【公演日】 2018 年 9 月 20 日 (木) ~24 (月) 予定

【会場】 水戸芸術館 ACM 劇場

※チケット発売開始は 6 月 9 日 (土) 予定!

<出席者プロフィール>



【作・演出】 詩森ろば (しもり・ろば) 宮城県出身

1993 年、劇団風琴工房旗揚げ。以後すべての脚本と演出を担当。全国どこへでも飛び回る綿密な取材で、多彩な題材を他にない視点で立ち上げる。骨太な戯曲とスピーディーかつ演劇知の塊のようなパワフルな演出で、扱う題材は、歴史劇から金融、福祉車両の開発からアイスホッケーまで、ありえない多彩さを見せる。2018 年からは詩森ろば (劇作家・演出家) と田島亮 (俳優) のふたりユニット、シリアルナンバー (serial number) として活動。'16 年、『残花』 (製作: いわてアートサポートセンター) と『insider』により、紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。『insider』が鶴屋南北戯曲賞最終候補。本年 3 月『アンネの日』により、芸術選奨・文部科学大臣新人賞を受賞。今最も注目を集めている作家・演出家の一人。

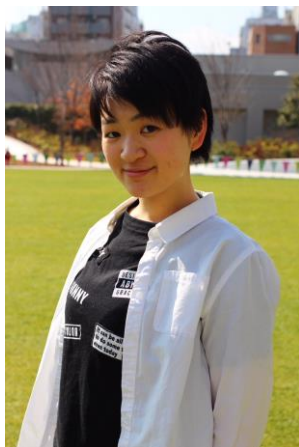


【主演】 松村 武 (まつむら・たけし) 奈良県出身

早稲田大学在学中の 90 年、八嶋智人ら 5 名で「カムカムミニキーナ」を旗揚げ。劇団の全作品の作・演出を担当。03 年には史上最年少で明治座の脚本・演出を手がけるほか、「グレート・ネイチャー」「詭弁走れメロス」「有頂天家族」、乃木坂 46 3 期生公演「見殺し姫」 (脚本・演出)、「DANCE EARH~生命の鼓動~」 (脚本)「叔母との旅」演出など、外部での脚本提供、演出作品多数。俳優として劇団公演をはじめ、NODA・MAP「ロープ」、阿佐ヶ谷スパイダース「はたらくおとこ」「少女とガソリン」、ラッパ屋「ポンコツ大学探検部」「筋書きナシコ」「父の黒歴史」、KAKUTA「痕々」などの舞台に出演。



**篠原立（しのはら・りゅう）** 1999年2月5日茨城県生まれ  
幼少の頃から子役としてテレビなどに出演し、近年は2.5次元ミュージカルを中心に活躍している。本年7月には舞台『BRAVE10』の続編、『BRAVE10～燭～』にも弁丸役として出演が決まっている。  
主な出演に、舞台『BRAVE10』、ミュージカル『テニスの王子様 3rd season』、タイププロデュース『マクベス』、水戸芸術館 水戸子供演劇アカデミー『星の下、青い夜の王国』、松永一哉プロデュース公演『Midnight Traveller』など。



**杉山 文乃（すぎやま・あやの）** 1997年9月24日茨城県茨城町生まれ  
中学生の時に水戸芸術館の水戸子供演劇アカデミーに参加し、初めて演劇に触れる。  
水戸女子高校在学中には水戸芸術館プロデュース公演、音楽劇『星の王子さま』（青木豪演出）などに参加。また、水戸ドラマスタジオの公演にも参加。2018年3月舞台芸術学院を卒業。

---

ひたちなか海浜鉄道湊線（旧茨城交通湊線）は2007年に廃止の危機に直面しましたが、地域住民の存続を望む声に応えた自治体が出資を決め、2008年から第三セクターとして運営されています。その後は、公募で選ばれた吉田千秋社長を中心に行われている地道な経営努力と、存続活動の為に組織された応援団によるボランティア活動によって地域密着の経営スタイルに変貌を遂げ、観光路線としても認知を広げながら乗客数を増やしています。2000年以降、同じ茨城県内でも複数の鉄道が廃線となった一方、着実な成果を挙げているこの鉄道では現在、国営ひたち海浜公園までの延伸が検討されています。この計画が実現すれば「第三セクター鉄道の延伸」として全国初の事例となります。  
本作では、新聞などのニュースには書ききれなかった、全長14.3キロメートルの小さな鉄道を愛し、鉄道と共に生きる人々の10年間を描きます。  
関係者の皆さまのご協力の下、昨年春より継続して舞台化に向けた取材を行っています。

---

### 未来サポートプロジェクトとは

茨城出身の若いアーティストの才能の発掘と、活躍の場の提供を目的として、平成25年度よりACM劇場が推し進めている企画。第1弾・演劇『息子たち』（2014年1月）、第2弾・津軽三味線『はなわちえの世界』（14年4月）第3弾・演劇『やさしい死神』（14年9月）、第4弾・演劇『十二夜／わたくし、マルヴォーリオは—』（15年2月）、第5弾・演劇『赤シャツ』（15年6月）、第6弾・「WALK THIS WAY! ストリートダンス×ACM THEATR」（15年9月）、第7弾・演劇『むりやりドクター！？』（16年7月）、第8弾・音楽劇『夜のピクニック』（17年9月）、第9弾・JAMセッション『和 jazz』（17年3月）、第10弾・演芸『アートタワー寄席』（17年9月）、第11弾・『ACMシアターコンサート2018』（18年3月）と開催してきた。